

## 産業廃棄物の削減

3Rを進め、最終埋立率を削減しました。

2011年度は、廃溶剤、金属や廃触媒などの有効利用により2,398トン有価物として売却しました。

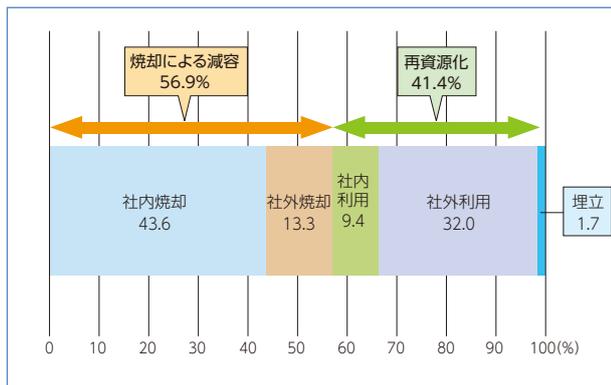
産業廃棄物については、次のとおり環境への排出削減に取り組みました。

- 廃棄物発生量の少ない製品に置換（リデュース【発生減少】）。
- 廃溶剤の利用、汚泥はセメント原料や堆肥として利用（リサイクル【再資源化】）。

富士工場※はリサイクル業者の工場稼働状況に合わせて処理を依頼することで埋立業者へ依頼せず、リサイクル量をアップして埋立を減らしました。徳島工場※は業者変更により埋立を無くしゼロエミッションを達成しました。

※富士工場・徳島工場:P31・P33参照

2011年度 産業廃棄物処理の内訳



産業廃棄物の推移



## Voice



徳島工場  
新田 竹弘

### 徳島工場でのゼロエミッション達成

ポリタンクなどの輸送容器は、ワンウェイ化が進んでいることに加えCPF（リサイクル燃料）の原料として売却しています。排水処理過程で発生する汚泥についても、焼却・埋め立てではなくセメント原料としての処理へと見直しをおこないました。こうしたことが、前年比25%弱の廃棄物減量とゼロエミッション達成に大きく寄与しました。また割り箸でさえ製紙会社のパルプ原料としてリサイクルしていることは、全員が高い意識を持って取り組んでいる表れといえます。今後は3Rをさらに進め、循環型社会の形成に貢献したいと思います。

## Voice



富士工場  
事務課  
庄司 哲也

### 富士工場での廃棄物削減の取り組み

富士工場で排出される主な廃棄物には、脱水汚泥、ろ過残渣、焼却灰および煤じん等があります。2011年度は、前年度の最終埋立量に比べ約6割削減できましたが、廃棄物の総量自体は前年度ほぼ横ばいの状況でした。最も排出量の多い脱水汚泥をリサイクル処理業者に排出するタイミングを、処理業者の工場稼働率の高い時期に合わせて排出することで、より多くの処理を効率的に委託することができました。このことが結果的にリサイクル量の増加につながり、埋立処分量の削減につながりました。この活動はISO 14001の環境マネジメントプログラムに取り込んだ結果、実を結んだものです。

## 土壌汚染対策

土壌汚染の自主検査を適切に実施し、現状把握に努めています。

荒川化学グループの工場では、「土壌汚染対策法」で規定する特定有害物質を使用しています。

土壌を掘削し場外へ排出する工事をおこなう場合は土壌サンプルを採取し、特定有害物質や油分の含有、pHなどの分析をおこない、土壌汚染が発見された時には対策を実施します。

2011年度は土壌汚染対策法に関わる形質変更、売却などの事例は発生しませんでした。